

Point. 1
多摩産材の
やわらかな温もり

多摩産材をふんだんに使った 温かみのあるエントランスへ

エントランスロビー



多くの方が利用される 開かれたエントランス空間へ

壁面に多摩産材ボードを使用し、木の雰囲気やわらかな空間に一新。ラウンド型の受付カウンターが来場者を温かくお迎えします。ピアノを設置したロビー側壁面にも多摩産材を使用、間接照明のやわらかな明るさが、ロビーコンサートなどくつろぎの時間を演出します。



©Masaki Hamada(kkpo)



エントランスロビー

大ホール



音響機材を最適化 座席布地をカラフルに

ステージ / 客席 (800席)



観客席



ホワイエ

高い耐震性を確保するために特定天井を改修。ステージの反響板を補修し、客席側は照明をすべてLED化しました。座席布地を張替え“甲州街道から見る四季の移り変わり”をイメージした配色・配置を工夫しています。ホワイエは幕天井に全面改修。特別な布地を配置したゆったりとした空間を生み出しています。

楽屋



明るく、 より使いやすい楽屋に

椅子を入れ替え、テーブルや鏡、照明など、細かい部分で劣化補修を施し使いやすさを向上させています。

小ホール



黒を基調に 小劇場風の空間に刷新

ステージ / 客席 (282席)



バルコニー席

床、座席側もすべてダークカラーにリニューアル。客席側照明はLEDへ、座席も固定式に変更しました。2階バルコニー席は車いすでの利用も可能にしました。

多目的室



©Masaki Hamada(kkpo)

多様な用途に応える新ルーム

旧喫茶スペースに新たに多目的室を設置し、フリースペースとして解放。その他にも、個人・団体など利用者のご希望に合わせて、多種多様な使い方ができる空間です。お子様が過ごしやすいよう、プレイマットなどもご用意しています。



プレイマット

Point. 2
安心の
バリアフリー対応

だれでもストレスなく利用できる 安心・安全、快適な工夫を盛り込みました



スロープの幅を さらにゆったりと

ホールへ向かう車いす用スロープは幅を広げ、ゆったりと利用できるように拡張しました。介助者の方にも安全にご利用いただけます。



バリアフリートイレを 増設

館内の全トイレを洋式化、1階のトイレを増設。バリアフリートイレも増設し、多様な方々がストレスなく利用できるようになりました。



小ホール専用 エレベーター

小ホールへの入場をよりスムーズに行えるようにB1~1階専用のエレベーターを設置。客席への移動がしやすくなりました。



車いす利用対応の 楽屋スペース

車いすの方にご利用いただきやすい大ホールの第3楽屋。入口は引き戸、スロープで段差解消、トイレ、シャワー室も十分スペースを確保しました。



「赤ちゃん・ふらっと」 を設置

授乳やおむつ替え等ができるスペース「赤ちゃん・ふらっと」を新設。小さなお子様連れの方も安心してご利用いただけます。



座って利用できる 受付カウンタースペース

受付カウンター横に、椅子に座って利用できる高さのスペースができました。車いすでお越しの方も、ご利用いただきやすい設計になっています。

Point. 3
オリジナルデザイン
のベンチを採用

いちょうホールの新たな”顔” 学生がデザインした こだわりのベンチ

エントランスに新しく設置された2種類の椅子はサレジオ工業高等専門学校デザイン科卒業生の大谷茜さんがデザインしたものです。リニューアルを記念して「多くの人が集い居心地よく過ごせるスペースに合うように」とゼミの卒業研究の一環として在学中に取り組んだそうです。

ひとつ目は「いちょう」をモチーフに多摩産材を使ったやわらかな曲線が特徴です。



側面がいちょうのデザインになっています

座ると包み込まれるような感覚に

「つなごみ」デザイン / 大谷茜 製作 / 飛騨産業

一方の6人掛けのソファは「つながり」をテーマに思い思いの向きに座れる設計。「1人だったり、カップルだったり、お子さん連れなど、それぞれの関係によって座る向きを自由に選べます」。



「つながり」をテーマにしたソファ

大谷茜さんとご指導にあたった坂元愛史先生

「つながり」デザイン / 大谷茜 製作 / 飛騨産業

「市民の方に馴染みある場所に作品が置かれることは何より光栄です。待ち合わせ場所など、エントランスの新しいシンボルになると嬉しいです。」と元気に語ってくれました。

インタビュー記事完全版は
WEBでお読みいただけます

詳しくはこちらから▶

